

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 6 年 1 1 月調査結果 - -

(平成 1 6 年 1 2 月 2 日)

調査期間：平成 1 6 年 1 1 月 1 8 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 4 商工会議所が 2 5 9 6 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 3 製造業 6 2 6 卸売業 2 3 4
小売業 7 4 2 サービス業 6 1 1

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成16年11月調査結果のポイント】

業況DIは4カ月連続でマイナス幅が拡大、景況に減速感

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（32.8）よりマイナス幅が2.2ポイント拡大して35.0となり、4カ月連続でマイナス幅が拡大した。

業種別の業況DIは、建設、製造、卸売の3業種でマイナス幅が縮小したが、小売、サービスで拡大したため、全産業合計の業況DIはマイナス幅が拡大した。製造業を中心に引き続き業況は好調との声はあるものの、公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の先行き悪化を懸念する声が寄せられている。

【建設業】では、「災害復旧工事、土木関連工事で繁忙だが、燃料価格、建設資材の高騰で採算が悪化」（一般工事）、「厳しい財政状況から公共工事は減少傾向にあり、上半期に1件も受注できない事業者も見られ、民間工事も低調」（一般工事）、「受注が少なく人員整理が進んでいる」（建築工事）と仕入コストの上昇や公共事業の減少、雇用への影響など、厳しい状況を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「全般的に受注量、操業時間も増えており、従業員の中途採用を行う事業所も出ている」（金属加工機械）と、引き続き好調との声の一方、「受注は好調だが、すでにピークアウトし踊り場にあると思われ、原材料もスチールを中心に依然、品薄感がある」（電気機器）、「工作機械は好調だが、繊維機械は中国向けについて若干停滞気味で、材料費も高止まっており先行き不安」（金属製品）と、先行き不透明感を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「野菜の早期出荷策が効いており、品物は良くないが、値段は下がってきている」（農畜産水産物）、「需要期を控え、和装関係の売上は増加した」（衣服、日用品）との声の一方、「天候の影響で商品の入荷が少ないため、販売単価が上がっても売上は伸びていない」（農畜産水産物）、「台風や新潟県中越地震の被害があった地域に対する売上は、不振な傾向がみられる」（衣服、日用品）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「まだまだ中小商店街には厳しさが続いているが、不況の底打ち感も出ている」（商店街）、「防災関連商品の売上は好調」（百貨店）との声はあるものの、「客数は前年並みだが、客単価の下落が続いており売上は減少」（百貨店）、「暖かい気候が続き、秋物、初冬物の動きが鈍く、衣料を中心に厳しい状況が続いている」（各種小売）と、消費の低迷や天候の影響を訴える声が寄せられている。

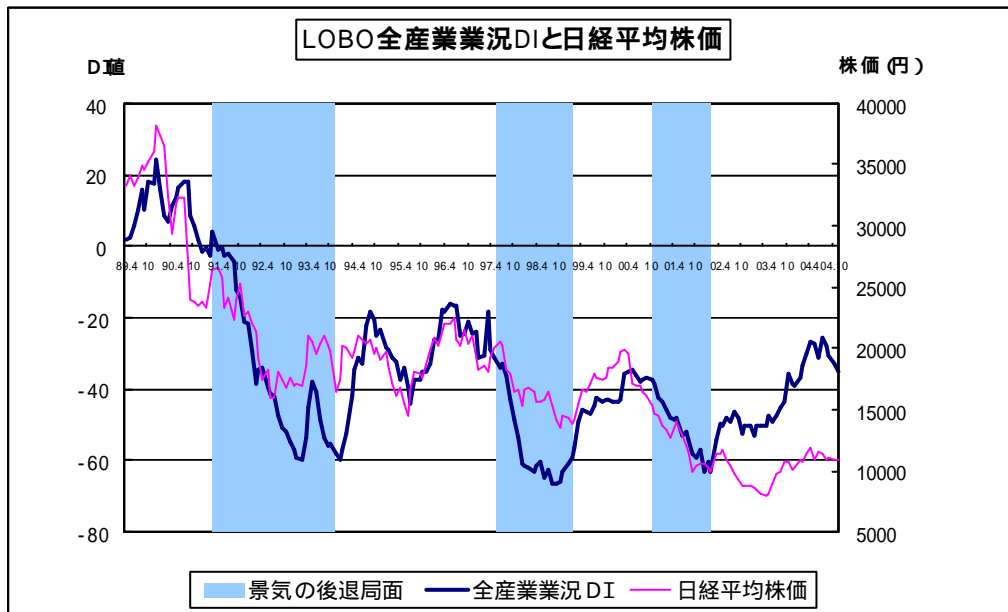
【サービス業】では、「設備投資を実施し売上は伸びたが、売上の推移に持続性はない」（ソフトウェア）との声や、「昨年と比べ忘年会等の予約は非常に少なく、あっても低予算」（食堂、レストラン）、「客数の減少傾向が続いている」（旅館）、「宴会の売上が減少し、例年なら埋まる空室も埋まらず先行きに良い材料は全くない」（旅館）と、消費の低迷や、「軽油が値上がり傾向で、顧客からも運賃の値下げを要求され、採算が悪化し苦戦」（運輸）と、仕入コスト上昇による厳しい状況を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、卸売を除く3業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は1.3ポイント拡大して 29.5となり、4カ月連続でマイナス幅が拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は製造を除く4業種で拡大したため、全産業合計の採算D I は2.9ポイント拡大して 34.3となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(12月~2月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が 29.2と、昨年同時期の先行き見通し(30.3)の水準に近付いている。

景気に関する声、当面する問題としては、製造業を中心に業況は好調との声の一方、引き続き公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が多く、また、天候、地震の影響に関するコメントも見られた。



【業況についての判断】

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（32.8）よりマイナス幅が2.2ポイント拡大して35.0となり、4カ月連続でマイナス幅が拡大した。

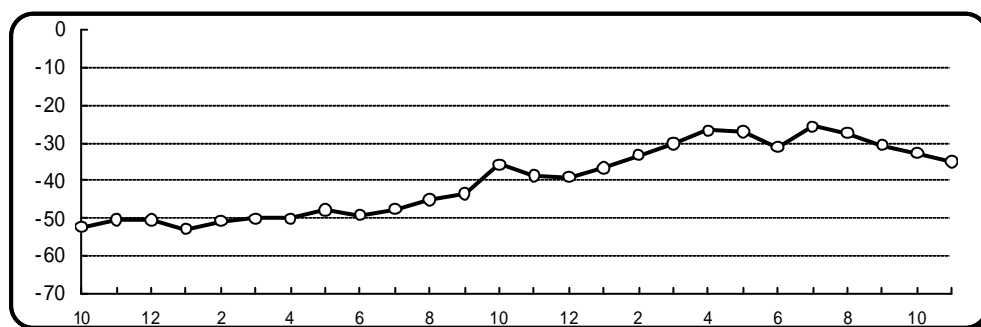
向こう3カ月（12月～2月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が29.2と、昨年同時期の先行き見通し（30.3）の水準に近づいている。

業況DI（前年同月比）の推移

	16年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	31.1	25.7	27.4	30.6	32.8	35.0	29.2 (30.3)
建設	55.0	49.1	43.7	42.1	48.1	47.1	45.8 (49.6)
製造	17.8	8.5	14.6	18.4	16.6	15.6	18.7 (21.9)
卸売	26.4	28.0	33.7	34.5	31.3	26.5	24.2 (29.6)
小売	35.9	30.0	31.5	33.6	37.2	43.6	30.8 (31.3)
サービス	25.0	22.2	22.4	31.2	35.2	41.0	29.4 (25.5)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年11月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

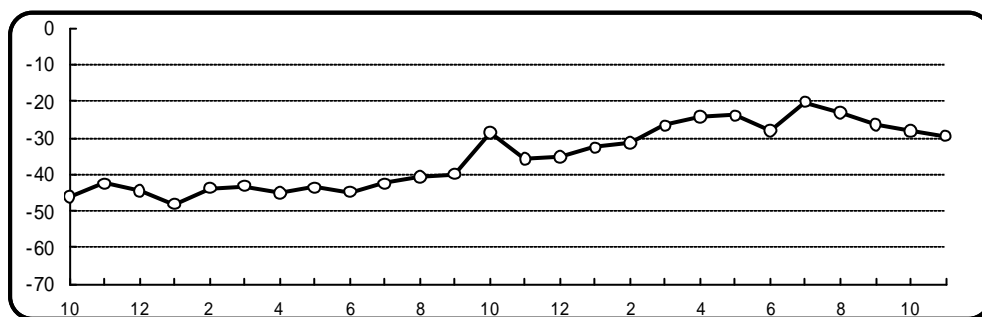
売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、卸売を除く3業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は1.3ポイント拡大して 29.5 となり、4カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(12月～2月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 25.3と、昨年同時期の先行き見通し(26.5)の水準に近づいている。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	28.0	20.2	23.2	26.4	28.2	29.5	25.3 (26.5)
建設	42.1	44.6	38.8	35.1	43.1	39.6	45.1 (45.3)
製造	7.8	0.4	8.1	10.8	4.0	5.4	12.9 (21.2)
卸売	30.1	20.1	29.5	34.5	28.3	26.5	19.4 (27.2)
小売	38.3	25.8	28.2	31.1	37.3	39.9	27.4 (27.8)
サービス	26.9	19.1	20.0	28.6	33.3	37.3	25.2 (17.4)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

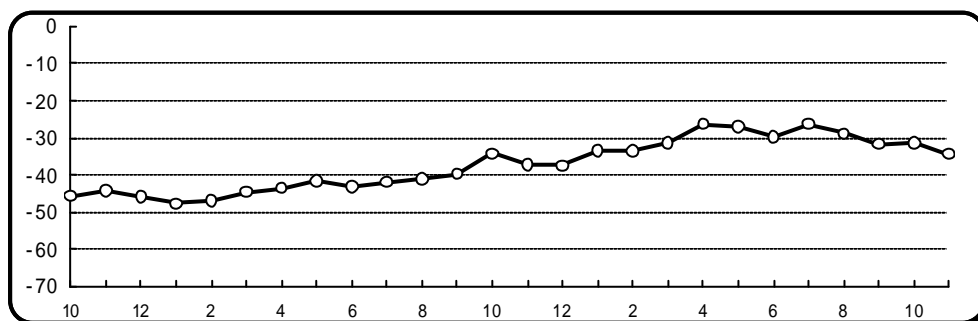
採算面では、D I 値のマイナス幅は製造を除く4業種で拡大したため、全産業合計の採算D Iは2.9ポイント拡大して34.3となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(12月~2月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が27.9と、昨年同時期の先行き見通し(27.6)に比べて若干悪化している。

採算D I (前年同月比)の推移

	16年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	29.7	26.2	28.8	31.6	31.4	34.3	27.9 (27.6)
建設	52.9	52.1	45.5	48.7	45.9	47.1	47.6 (51.1)
製造	21.9	17.1	23.8	24.4	22.9	22.2	20.6 (23.9)
卸売	23.9	21.3	31.3	27.4	22.9	25.3	18.2 (22.2)
小売	28.1	22.8	28.1	29.1	31.9	36.5	26.9 (22.9)
サービス	26.7	24.7	22.6	32.8	33.5	39.6	27.5 (23.2)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	22.8	20.5	20.0	21.2	21.7	24.6	23.0 (24.5)
建設	37.5	40.8	36.5	36.1	37.8	43.7	42.0 (40.3)
製造	18.6	14.7	16.2	16.3	15.5	16.5	19.9 (25.0)
卸売	23.1	14.2	16.8	17.4	16.4	23.6	15.2 (19.4)
小売	18.2	17.4	16.0	19.1	19.8	21.6	18.1 (18.4)
サービス	21.2	17.7	17.3	19.6	20.7	23.1	22.3 (22.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全業種で悪化超感が強まったため、全産業合計でも3カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】建設、サービスを除く3業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	15.9	15.1	14.1	16.5	21.2	22.8	17.1 (5.4)
建設	27.2	24.1	21.5	23.1	27.8	28.8	25.7 (4.1)
製造	31.9	32.1	31.2	35.7	33.7	37.5	26.0 (13.4)
卸売	9.3	12.3	6.0	14.6	18.7	22.9	18.2 (0.0)
小売	1.6	1.8	2.7	3.0	9.6	9.3	5.1 (0.4)
サービス	11.4	7.9	8.2	8.4	18.0	19.3	16.2 (6.6)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】小売を除く4業種で上昇超感が強まったため、全産業合計でも3カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	16年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	7.5	6.2	6.2	5.3	6.1	5.4	8.5 (9.5)
建設	27.4	27.6	25.6	23.0	22.0	23.6	24.0 (22.5)
製造	6.0	3.6	6.2	3.2	5.0	3.2	11.8 (10.5)
卸売	10.4	6.7	7.2	9.7	10.8	7.8	7.0 (10.6)
小売	1.2	1.0	0.8	2.0	1.4	1.4	1.8 (6.8)
サービス	2.2	0.5	1.2	2.3	0.2	2.7	2.9 (1.9)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】建設、サービスを除く 3 業種で過剰超感が弱まったため、全産業合計でも 2 カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通し D I】建設、製造、サービスで昨年同時期に比べて過剰超感が強まったが、卸売、小売で弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成16年11月の景気キーワード】

回復への動き

製造業を中心に、業況は引き続き好調との声が寄せられている。建設、製造からは「組合全体の業況は、今年度後半にかけ少しずつ好転している」(魚津・建築工事)、「暖房器具の増産、自動車関連の短納期での受注のためフル生産の状態、建設機械関係は落ち着いてきたが、受注はこの先も続きそう」(加茂・金属加工機械製造)といった声が寄せられている。また、「安定した操業が続いており、一部に設備買い替えが見られてきている」(新居浜・一般産業用機械製造)と設備投資の動きや、「原材料価格は高騰しているが、製品単価も上がってきているので採算はとれるようになってきている」(西尾・鉄素形材製造)と採算が好転との声や、「建設機械、自動車部品、工作機械部品など、中国、欧米への輸出が好調なため、フル生産している工場が多く、震災により新潟の鋳物工場が稼働できないため、その分の受注も増加している」(水沢・鉄素形材製造)、「年末年始の特別需要が多い」(伊那・印刷)といったコメントも寄せられている。卸売、小売、サービスからは、「業況は好調に推移しており、売上も年末にかけて伸びてくると思われる」(玉名・農畜産水産物卸売)、「今月は七五三や祝い事が多く、吉日には売上が良かった」(野田・すし店)との声や、「年末にお歳暮等で売上が上がることを期待している」(藤枝・飲食料小売)といった声が寄せられている。

悪化への懸念

各業種から、業況の悪化傾向を訴える声も多く寄せられている。「公共工事の削減、民間設備投資の激減と素材価格高騰による仕入単価の上昇で、業況は悪化の一途」(酒田・一般工事)、「原油価格の上昇によりプラスチック原料をはじめ関係諸資材の価格は上昇している反面、製品売価は抑えられている」(大府・工業用プラスチック製造)との声や、「業況は9月をピークに急減速しており、生産の海外移転もちらつかせた強引なコストダウン要求が出始めている」(さいたま・ブリキ缶等製造)、「携帯電話、デジタルカメラ等の半導体業界の先行きは不透明で、国内、海外ともに不安感あり」(茅野・電子部品製造)、「景気の押し上げ力が弱く、原油価格次第で景気悪化の懸念があり、先行き不透明」(小野・各種卸売)と、景況の先行きを懸念する声が寄せられている。また、「お歳暮の出足が年々遅くなっている」(千葉・百貨店)、「暖かい天候で冬物衣料品の出足が良くないうえ、バーゲン待ちの傾向が感じられる」(柏・商店街)、「今年は天候異常のためか紅葉も期待していたほど良くなく、新潟県中越地震の影響もかなりあったようで、キャンセルが多い」(会津若松・旅館)、「地震災害のインパクトが大きく、受注のキャンセルが一部に発生しており、完全復旧には時間がかかる」(小千谷・電気機器)と、引き続き消費の低迷や、天候、地震の影響を訴える声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
16年 9月	回復への動き	景況感格差	天災
10月	回復への動き	景況感格差	天災
11月	回復への動き	悪化への懸念	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月ぶりに拡大した。「災害復旧工事、土木関連工事で繁忙だが、燃料価格、建設資材の高騰で採算が悪化」(一般工事)「組合での取り扱い材料について、メーカー等から大幅な値上げ要請があり、今後も非常に厳しい状況が続くと思われる」(管工事)と、仕入コスト上昇などによる採算の悪化や、「厳しい財政状況から公共工事は減少傾向にあり、上半期に1件も受注できない事業者も見られ、民間工事も低調」(一般工事)「受注が少なく人員整理が進んでいる」(建築工事)と、公共事業の減少や雇用への影響など、厳しい状況を訴える声が寄せられている。
製 造	業況、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月ぶりに拡大した。「受注量は全体的に増加傾向にあり、特に自動車、IT関連はフル生産の状況」(自動車、同附属品)「全般的に受注量、操業時間とも増えており、従業員の中途採用を行う事業所も出ている」(金属加工機械)と、引き続き好調との声の一方、「受注は好調だが、すでにピークアウトし踊り場にあると思われ、原材料もスチールを中心に依然、品薄感がある」(電気機器)「工作機械は好調だが、繊維機械は中国向けについて若干停滞気味で、材料費も高止まっており先行き不安」(金属製品)「ここに来て、半導体関係が急激に悪くなってきており、ここ2~3カ月が今後の目安となりそう」(金物類)と、先行き不透明感を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、採算D Iは3カ月ぶりに拡大した。「野菜の早期出荷策が効いており、品物は良くないが、値段は下がってきている」(農畜産水産物)「需要期を控え、和装関係の売上は増加した」(衣服、日用品)といった声の一方、「天候の影響で商品の入荷が少ないため、販売単価が上がっても売上は伸びていない」(農畜産水産物)「昨年の米不足は今年になり落ち着いたため、前年同月比で売上は減少」(農畜産水産物)「台風や新潟県中越地震の被害があった地域に対する売上は、不振な傾向がみられる」(衣服、日用品)といった声が寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも4カ月連続でマイナス幅が拡大した。「まだまだ中小商店街には厳しさが続いているが、不況の底打ち感はある」(商店街)「防災関連商品の売上は好調」(百貨店)との声はあるものの、「食料品は好調だが、衣料、雑貨は前年同月比で下落傾向にあり、厳しい環境にある」(百貨店)「客数は前年並みだが、客単価の下落が続いており売上は減少」(百貨店)「暖かい天候が続き、秋物、初冬物の動きが鈍く、衣料を中心に厳しい状況が続いている」(各種小売)と、消費の低迷や天候の影響を訴える声が寄せられている。
サービス	業況、売上D Iは4カ月連続、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「設備投資を実施し売上は伸びたが、売上の推移に持続性はない」(ソフトウェア)との声や、「昼も営業している店はランチの客数は特に変わらないが、夜のみ営業している店は相変わらず低迷しており、昨年と比べ忘年会等の予約も非常に少なく、あっても低予算」(食堂、レストラン)「客数の減少傾向が続いている」(旅館)「宴会の売上が減少し、例年なら埋まる空室も埋まらず先行きに良い材料は全くない」(旅館)と、消費の低迷を訴える声のほか、「軽油が値上がり傾向で、顧客からも運賃の値下げを要求され、採算が悪化し苦戦」(運輸)と、仕入コストの上昇による厳しい状況の指摘も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況DI(前年同月比ベース)は、中国、四国でマイナス幅が縮小したが、他の7ブロックで拡大したため、全ブロック合計でも4カ月連続で拡大した。

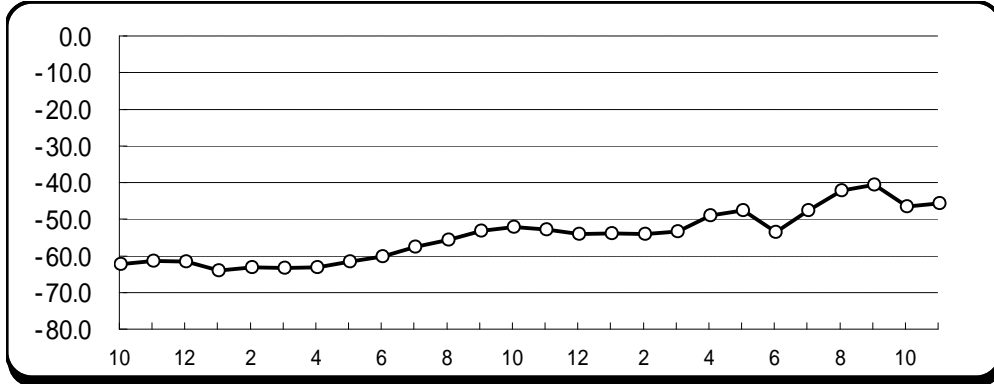
ブロック別の向こう3カ月(12月~2月)の業況の先行き見通しは、北海道、東北、北陸信越、中国、四国、九州で昨年同時期と比べて悪化したが、関東、東海、近畿で改善したため、全部ブロック合計でも改善している。

ブロック別・全産業業況DI(前年同月比)の推移

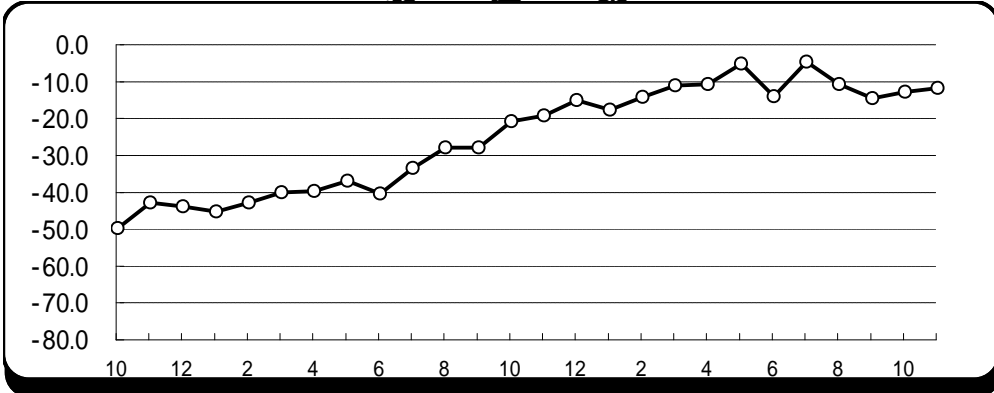
	16年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全 国	31.1	25.7	27.4	30.6	32.8	35.0	29.2 (30.3)
北海道	31.8	28.7	28.1	28.4	23.7	33.3	36.1 (29.8)
東 北	36.0	31.1	30.7	35.9	37.9	42.3	37.8 (37.6)
北陸信越	27.5	27.4	22.0	35.0	33.1	37.3	32.0 (30.3)
関 東	29.0	22.1	23.0	23.0	27.0	31.6	22.0 (23.6)
東 海	28.0	18.8	24.3	23.4	20.0	23.7	21.9 (29.5)
近 畿	29.2	28.2	34.3	35.4	37.5	40.8	33.0 (37.8)
中 国	34.6	26.7	30.3	33.3	42.1	31.8	33.8 (32.8)
四 国	38.7	31.7	36.2	43.4	49.3	42.2	25.9 (25.5)
九 州	32.1	23.3	24.1	29.3	33.2	35.2	32.4 (31.1)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

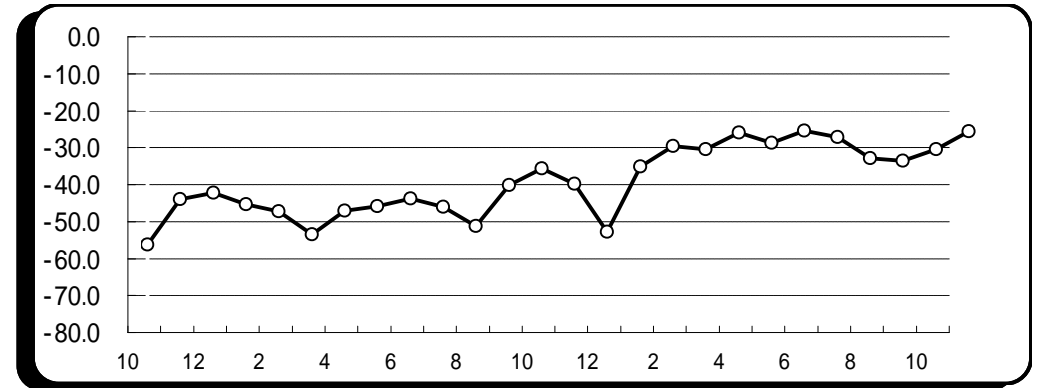
建設業



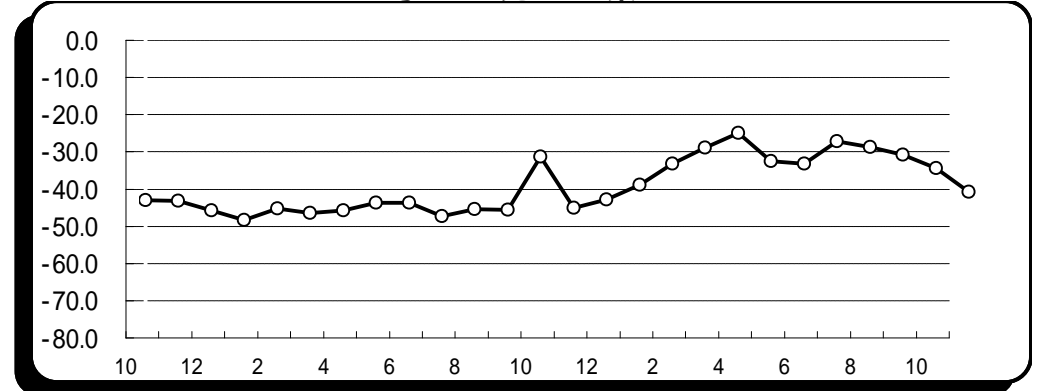
製造業



卸売業



小売業



サービス業

